



# 議会図書室からのお知らせ

今月の新着図書  
R6年10月（一般用）

## 『ルポ スマホ育児が子どもを壊す』

教育

石井光太【著】/新潮社（2024/7）



保育園から高校の教職員による衝撃の報告。ハイハイも体育座りもできない保育園児。教室の圧に怯える小学生。クラスメイトの姓を知らない中学生。会ったその日に交際する高校生。児童問題を追う著者が、デジタルネイティブの育ち方を徹底レポート。

## 『体験格差』

教育格差

今井悠介【著】/講談社（2024/4）



習い事や家族旅行は贅沢？ 今、子どもたちから何が奪われているのだろうか。家庭の経済状況・障害の有無・生まれた地域などで生じる「体験格差」。「したいことを自由にできる子ども」と「したくてもできない子ども」の成長格差解消方法を考える。

## 『教師のウェルビーイングを創出するメンタルヘルスケア』

教師論

服部紀代【著】/晃洋書房（2024/3）



多くの期待と役割を背負わされ、教職員の精神疾患による休職者数は増加している。学校のウェルビーイング議論の中心に「教師」を据え、実効性のある教師のメンタルヘルスケアを再考。生徒も教師も健やかに過ごせる学校環境のために。

## 『休養学～あなたを疲れから救う』

健康

片野秀樹【著】/東洋経済新報社（2024/2）



ゆっくり休みたいのに休めないのは、「休むイコールなまける」という考えがしみついているから。疲労は体からの警告であり、本来は「今日は疲れているので、休みます」と言えなくてはおかしいと語る。ポジティブかつ効果的に休むために読みたい1冊！

## 『すき間の哲学～世界から存在しないことにされた人たちを掬う』

福祉

村上靖彦【著】/ミネルヴァ書房（2024/7）



だれも取りこぼされない社会のために！制度と制度の「すき間」に陥り、法権利に守られない人が、福祉国家であるはずの日本にも存在している。「すき間に陥る人を生まない社会」の実現へ向けて、何が必要なのかを議論する。

## 『ネットでいじめられたら、どうすればいいの？』

ネット社会

春名風花【著】/河出書房新社（2024/7）

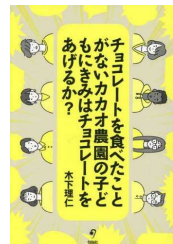


誹謗中傷や嫌がらせなど、24時間365日やってくる「SNS時代のいじめ」は子どもの世界にも及んでいる。被害者にも加害者にもならないためにはどうすればいい？ 見えずらい「いじめ対応策」と「心のケア」を、弁護士、精神科医などの専門家らと考える。

## 『チョコレートを食べたことがないカカオ農園の子どもにきみはチョコレートをあげるか？』

多文化共生

木下理人【著】/旬報社（2024/5）



カカオ農園の貧しい子どもにチョコレートを食べさせるべきか？ 学校に通わずに働いている少女の作った洋服を着るべきか？ 転校してきた外国人の友達に校則違反だとピアスを外すように言うべきか？ 国際協力と多文化共生のための「読むワークショップ」。

## 『パレスチナ/イスラエルの“いま”を知るための24章』

国際問題

鈴木啓之・児玉恵美【編著】/明石書店（2024/5）



パレスチナに暮らす人々や故郷を追われた人々の現状、イスラエル国内の世論等、対立構造のみでなく多様な視点からパレスチナ問題がわかる1冊。どのようにガザを支援しているか、又パレスチナ国内のカルチャーや日常も写す、パレスチナ理解の決定版。

## 『ツミデミック』

話題/小説

一穂ミチ【著】/光文社（2024/6）



コロナ禍を背景に、給付金詐欺やソーシャルゲーム課金、特別縁故者問題などの身近なトピックスを題材に描かれる犯罪小説集。ふつうに生きている私たちが、社会に翻弄され、意図せず罪を犯してしまう危うさと恐怖を感じる1冊。第171回直木賞受賞作。

▶特別委員会シリーズ③：「循環型社会構築」に関する書籍

新着

『産業廃棄物と資源循環～改訂新版』

守谷賢【編】/環境新聞社 (2024/3)



資源循環で大きな役割を担う産業廃棄物処理業。この事業に携わる人を対象にした産業廃棄物・資源循環の解説書。プラスチック資源循環、サーキュラーエコノミーなどの動向を加えた改定新版。

新着

『大適応の始め方～気候危機のもうひとつの争点』

モーガン＝フィリップス【著】/みずず書房 (2024/6)



「気候ジェントリフィケーション」など、筋悪な適応策と社会的不公正の連動がすでに始まっている。気候変動緩和を妨げる誤適応を避け、公正な適応を進めるための議論のきっかけとなる1冊。

新着

『ネイチャーポジティブ経営の実践』

PwC JAPANグループ【著】/日経BP (2023/11)



取組が加速する「ネイチャーポジティブ」の全体像を俯瞰し、企業がネイチャーポジティブを実現するためのアプローチを解説。自然破壊リスクの高い業界の課題や先進事例も紹介。

新着

『未来の食と環境を守れ～有機農家からの提案』

涌井義郎【著】/新日本出版社 (2024/6)



日本の食料自給率は国際的に最低水準。農家は全就業者中たった1・7%。打開のヒントは有機・環境再生農業にある！経営の大規模化では失策することをふまえ、すべきを農の論理から提案。



図書広報委員がおすすめする一冊

『ケーキの切れない非行少年たち』



著者：宮口幸治／新潮社 (2019/7)



紹介者：松本 隆志委員  
自由民主党・館林市選出・1期

宮口幸治著「ケーキの切れない非行少年たち」は、非行少年たちが抱える認知機能や発達の問題に焦点を当てた書籍です。著者は心理学の専門知識を基に、彼らの行動の背景にある「ケーキを切れない」という分かりやすい事例を通じ、判断力や認識力の欠如が社会問題にどのように影響しているかを解説しています。非行や犯罪の背景にある発達課題を理解し、より効果的な支援や予防策を考える上で非常に参考になります。近年、非行や犯行が低年齢化し、更生保護支援の重要性が増していますが、支援体制には多くの課題もあります。非行の背景にある複雑な要因を理解する上で、ヒントを与えてくれる一冊です。

▶次号では、鈴木 数成 委員におすすめしていただきます！

